

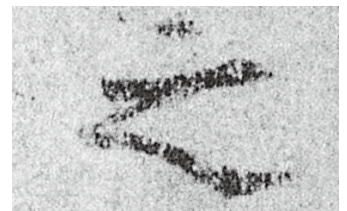
# 書の道

No.492

令和3年 8月号

王興之墓誌銘 三四〇年 東晋

君諱興之字稚隨琅蔚臨  
沂都鄉南仁里征西大將  
軍行參軍贛令春秋廿一  
咸康六年十月十八日卒





王興之墓誌銘

1965年、南京の人台

山から表に①、裏に②の墓誌が彫られた石刻が発見されました。

〈鑑賞〉

①墓誌は君の諱(いみな)は「興之」から始まり姓がありません。文中に③「先考」の語句があり、④の役職や「肅」の諡(おくりな)が文中にあり、お父さんは王彬(お

うひん)さんと判明しました。

仲のよい夫婦だったのでしようね。この墓誌は「王興之夫婦墓誌(東晋・3義之の書と推理。また、40年揮毫)」と正式に名が付けられました。

⑥の王義之の行書のスタイルは異質に見え、同じ時代の同じ国の文字とほかに存在していることを

の弟です。興之の姓は「王」で、王義之と従兄弟(いとこ)にあたる人

それではだれがこの墓誌を揮毫(書いた)したのでしょうか。ある人は、王興之の兄弟の一人の書と推理しています

かほ別にしても、東晋の時代の南の国の書で、あることは確かなことです。

線を引く根底に蔵鋒の筆法があれば、東晋の時代に①②の墓誌銘と⑤⑥の行草の違う表現を、た

蔵鋒の有無が共存する墓誌

墓誌ですが、臨書にはすべてに蔵鋒を意識する必要がありません。しなければ別のものとなるからです。

①表王興之墓誌銘

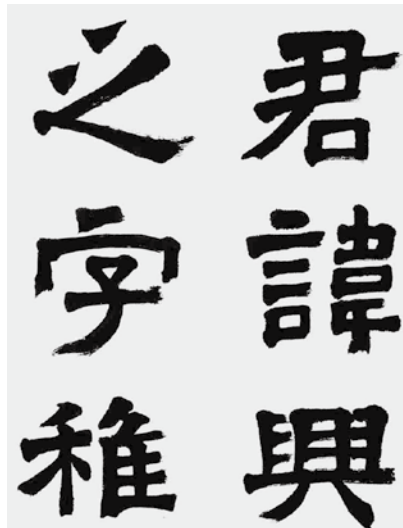


②裏王興之婦人墓誌銘



③先考「はじきお父さんの意味」④は役職「肅」はおくりな

この墓誌の文字表現は隷書の筆づかいを受け継いでいます。漢(隸書)が終わり、三国の戦乱も鎮まり、一時ではあっても平安を迎えた東晋の時代には①②と⑤⑥のように違う道を歩き始めた異なった書体を、同じ人が書く可能性もあつたかもしれませぬ。しかし、こ



大琳臨

⑤王義之の「蘭亭序」の部分



⑥王義之の「姨母帖」の部分





李柏尺牘稿

三三八〜三三〇年頃 東晉

恒不苦心今奉臺使去西日  
 二日到此未知王消息想國中  
 平安王使回復羅從北當力  
 中與巖条事往想是到也

龍谷大学図書館蔵

蘭亭序 王羲之  
蘭亭八柱 第一柱本 唐·虞世南臨書本（張金界奴本）



蘭亭序①

〔釈文〕 永和九年、歲在癸丑。暮春之初、會于回稽山陰之蘭亭。脩禊事也。群賢畢至、少長咸集。此地有崇山峻嶺、茂林脩竹、又有清流激湍、映帶左右。引以為流觴曲水、列坐其次。

雖無絲竹管弦之盛、一觴一詠、亦足以暢叙幽情。是日也、天朗氣清、惠風和暢。仰

〔訳文〕

永和九年、歲は癸丑に在り。暮春の初め、會稽山陰の蘭亭に會す。禊事を脩むるなり。群賢畢く至り、少長咸集まる。此の地に、崇山峻嶺、茂林脩竹有り。又、清流激湍有りて、左右に映帶す。引いて以て流觴曲水と為し、其の次に列坐す。糸竹管弦の盛無しと雖も、一觴一詠、亦以て幽情を暢叙するに足る。是の日や、天朗らかに氣清み、惠風和暢す。



# 蘭亭序

①蘭亭序は動きや流とよくまとまる毛先のす。隋の智永(羲之七  
 子が次第に加わり、終 鼠鬚筆(そしゅひつ) 代目の孫)まで受け継  
 始リズムは一定ではあ の筆。そのうえに参加 がれた蘭亭序は弟子の  
 りません。「之」の② 者の心を一つにした会 弁才に委ねられ、弁才  
 二十個の同文字はすべ 場の雰囲気絶品を生 は隠し穴まで作って保  
 て同字形ではありません だったのでしよう。 管に努めました。

②その変化を手伝つたのは気分を高めたお 王羲之は失敗や挿 皇帝太宗は王羲之の書  
 酒と、技術を維持させ 入の部分の氣にしたの を集めていました。蘭  
 た文房輿・蚕繭紙(さ か、曲水の宴で書いた 亭序だけが入手できま  
 んけんし)の紙に弾力 絶品を門外不出としま せん。弁才が持つてい

①蘭亭序(張金界奴本)(353年)



②蘭亭序に見る「之」字20個(張金界奴本より集字)



## 墓に埋められた蘭亭序

ることを聞きつけた太宗 昭陵の墓に埋めてくれ」すべき、人民のための  
 宗は房玄齡に略奪の命 と遺言。この後、蘭亭 急務でない限り発掘は  
 を下します。その命を 序はこの世から姿を消 しない」と断つたそう  
 受けた蕭翼(しょうよく) したので。しかし、 です。西安旅行中に聞  
 く「梁の元帝のひ孫・ 「新五大史」の記録に いたちよつと氣になる  
 当時監察御史の役人) は「唐滅亡後、大盗賊 話です。  
 は策を用いて蘭亭序を の温韜(おんとう)は この話に確証はあ  
 奪います。この時の逸 昭陵を盗掘。鍾繇や王 りませんが、郭沫若  
 話はまたいつかの機会 羲之の書を盗んでいる 一九六五年の「文物」  
 に…。

やっと入手した太宗 まれていませんでした。 発表。「蘭亭序は書も  
 は虞世南・歐陽詢・褚 <ちよつと氣になる話> 文も王羲之が作ったも  
 遂良等に命じて臨書を 郭沫若は周恩来首相 のではない…」と、主  
 させ、馮承素(ふうしよ に乾陵発掘の許可を申 張しています。郭沫若  
 うそ)らにも模写させ 請したそうです。その 氏死後は忘れられた論  
 たのです。④虞世南の 理由は「蘭亭序は昭陵 文となりましたが、蘭  
 臨書本蘭亭序(張金界 でなく、乾陵(高宗と 亭序の真蹟は今も見る  
 奴本)や⑤馮承素の模 則天武后の墓)に埋め ことはできません。絶  
 本蘭亭序(神龍半印本) られた」という推定の 品の蘭亭序のなぞは永  
 がそれです。太宗は後 立証からです。周恩来 遠に語り継がれるので  
 の高宗に「私が死んだ 首相は「未来の人民の しょうか。  
 ら遺体と共に蘭亭序は ために文化遺産は使用 (大琳)

④蘭亭序(第一柱本、虞世南臨書本)



⑤蘭亭序(第三柱本、馮承素摹本)



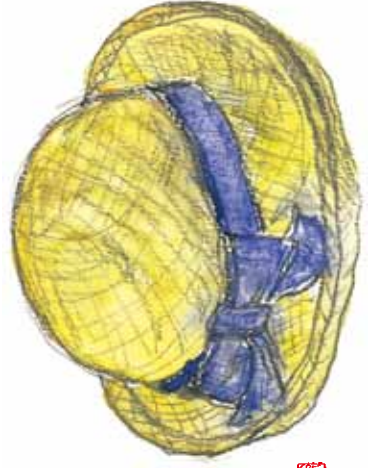


☆「有」がありません。

黄庭經

1 上有黄庭下關元☆後有幽關前有命門嘘吸廬外出  
 2 入丹田審能行之可長存黄庭中人衣朱衣關門壯籥  
 3 盖兩扉幽關俠之高魏く丹田之中精氣微玉池清水上  
 4 生此靈根堅志不固衰中池有士服赤朱横下三寸神所居  
 5 中外相距重閉之神廬之中務脩治玄靡氣管受精符  
 6 急固子精以自持宅中有士常衣絳子能見之可不病橫  
 7 理長尺約其上子能守之可無恙呼喻廬間以自償保守  
 8 完堅身受慶方寸之中謹盖蔽精神還歸老復壯俠  
 9 以幽關流下竟養子玉樹不可杖至道不煩不旁迂





炎天を  
突き抜ける  
熱闘の  
漲る力  
ななりの詩

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2021

8 August